豊中ーサンマテオ
都市提携ニュース

第 22 号
1991年 7 月 1 日発行
豊中・サンマテオ
姉妹都市協会
事務局　豊中市人権文化部
文化課国際交流係
858-2651

前列左から、第５位の矢守愛子さん、第３位の岸田有里子さん、優勝の澤藤美代子さん、準優勝の寺嶋素子さん、第４位の金　哲学さん

THE 19TH ANNUAL
ENGLISH SPEECH CONTEST

第19回
高校英語弁論大会

優　勝　梅花高校　澤藤美代子さん

準優勝　梅花高校　寺嶋素子さん

澤藤美代子さん

寺嶋素子さん

豊中・サンマテオ姉妹都市協会主催の第19回高校英語弁論大会は、1月26日午後2時から市立中央公民館で開かれました。今回は市内外の高校8校から男子3人、女子14人の計17人が参加、熱弁を奮いました。

優勝は梅花高校2年生の澤藤美代子さん、準優勝も同校2年生の寺嶋素子さんでした。

澤藤さんは「百点満点…?」と題し、本当の勉強とは、テストで百点を取ることだけなのだろうかと疑問を投げかけ、勉強することの本当の意義は、人生や生活の質を高めるということを理解することだと思う。日本人は、この辺の認識がかけている、と訴えて弁論を展開しました。

また、寺嶋さんは、「カウントダウン」と題し、昨年7月神戸の高校で起きた悲しい事件を通して、学校教育とは、いかにあるべきか、また、若者の無気力が管理教育の産物ではないかと訴えました。

審査員は、デービッド・ボールドウィン氏（金蘭短期大学教授）、ガリー・バック氏（大阪明浄女子短期大学助教授）、川合隆子氏（当協会常任理事）、宮城弘善氏（三島高校校長）、住吉保男氏（府教委嘱託・外国人児童担当）の5人。

発音やテーマの内容などを厳正に審査し、成績発表のあと、審査員を代表してデービッド・ボールドウィン氏が「大変内容の濃いスピーチばかりでした。日本人とアメリカ人は数の数え方が違うので、英語弁論大会で数を数える時は、アメリカンスタイルですれば、印象がよくなります」と講評しました。

優勝者及び準優勝者は、今年8月21日から1週間の予定で姉妹都市のサンマテオ市に、親善使節として派遣されます。サンマテオ市ではアメリカ人家庭にホームステイをしながら、文化や風俗の違いなどを体験しながら交流につとめます。

入賞者は次のみなさんです。　（敬称略）

順位	氏　名	学校名	学年
優勝	澤藤美代子	梅花高校	2
準優勝	寺嶋素子	梅花高校	2
3位	岸田有里子	梅花高校	3
4位	金　哲学	豊中高校	1
5位	矢守愛子	同志社女子高校	1

英語弁論大会の優勝者の澤藤さんにインタビュー

優勝の感想は？

昨年も出場したのですが、残念ながら3位でした。ですから今回是非とも優勝してサンマテオに行きたかった…。その願いが実現するなんて……。さらに同じクラスの親友寺嶋さんが2位になり、一緒に訪米できるのは最高です。

学校でのみんなの反応は？

弁論大会の翌々日の月曜日、校長先生が校内テレビ朝礼で、祝福して下さいました。教室でもみんなから「おめでとう」と言われ、とても感激しました。

アメリカで体験したいことは？

初めてのアメリカ旅行で、今から胸がウクワクしています。アメリカの高校生はとても独立心が強いと聞いています。できたら高校生がいる家庭にホームステイさせてもらい、その辺のことを勉強したいと思っています。

英語の勉強法は？

中1から学校ではずっと英語コースに入っています。高1から英会話教室に習いに行っています。今は英語を話すことが大変楽しいです。

将来の夢は？

今放送部に入っています。日本語と英語の両方が使えるアナウンサーになるのが夢です。

サンマテオ

新市長にジェーン・パウエル氏

サンマテオ市議会は、1990年12月10日に改選を行い、新市長にジェーン・パウエル氏を選出しました。

新しいメンバーは次のとおりです。

市　　長　ジェーン・パウエル氏
副 市 長　フローレンス・ローズ氏
議　　員　ジェーン・ベーカー氏
議　　員　ポール・ガンビンジャー氏
議　　員　トーマス・マック氏

とよなか

顧問に前豊中市長下村輝雄氏

1990年度（平成2年度）姉妹都市協会の総会が昨年8月19日、ホテルアイボリーで開催され、前豊中市長下村輝雄氏が当協会の顧問に就任されました。

又、下村氏から、当協会の事業運営に役立てて欲しいと100万円の寄付を頂きました。

ご厚志を無にすることなく、有効に活用させて頂きます。

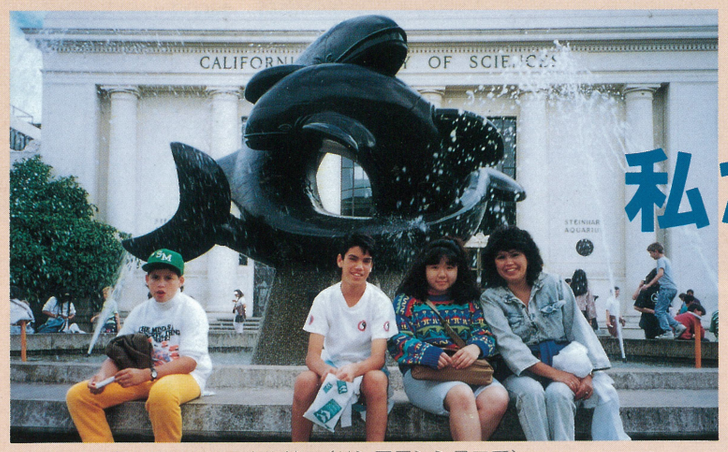
事務局が変わりました

これまで豊中市市長公室秘書課で行ってきました、当協会の事務局が人権文化部文化課（国際交流係）に変わることになりました。

これは、5月7日付で行われた豊中市役所の機構の改正に伴うもので国際交流に関する業務をまとめ、更に推進させるため行なわれたものです。

第18回高校英語弁論大会で優勝された奥野由加里さん（現梅花高校３年生）と準優勝の大平晃子さん（現豊中高校３年生）が副賞として昨年８月、サンマテオ市に派遣されました。

二人は現地でホームステイを楽しみながら陽気なアメリカ人の心暖まるもてなしを受けました。感想文にあるように、若い二人にとっては、何ものにも代えがたい貴重な体験となったようです。



ガーベイー家につれられて水族館へ（サンフランシスコで）

私たちのサンマテオ市訪問記

ロジャース家でお別れパーティー

奥野由加里さん

私のサンマテオでの９日間は、様々な事を考えさせてくれる貴重な体験となりました。

今回の渡米が初めてでなかったため、いく分リラックスはしていたものの、やはり、大平さんと２人きりで税関を通った時は、かなり緊張していたのを覚えています。

私の期待と不安をすっぽり包み込んでくれる。それがホストファミリーのガーベイさん一家でした。彼らと共にした生活の中で、私が一番感心したのは、家庭における父親の存在感と子供達の責任感の強さです。父親の“子供のことは母親まかせ”からくる、子供の父離れが目立つ日本に比べ、ガーベイさん宅の強い信頼関係は理想的だといえるでしょう。ミスター・ガーベイは決して口数の多い方ではありませんでしたが、絶えずニコニコしていて、全身からやさしさがにじみ出てる方でした。しかしその分、ここという時見せる厳しさは、説得力あるものでした。彼がどれだけ家族を愛しているかは、短い滞在期間でも十分感じとることができました。そういった親の愛に守られ子供達は、自分達は信用され、頼りにされているという思いから、自然と責任感ある人間になっているようでした。アメリカの子供は、日本の同世代と比べて、随分大人っぽく見えますが、それは化粧や服装のためだけでなく、そういった内面での成熟度の高さによるものだとつくづく感じさせられました。私も含めて日本の若者は、アメリカ人の外見的なところばかりマネる傾向にありますが、本当に見習わなければならないのは、彼らのそういうところだと痛感しました。短い間でしたが、すばらしいガーベイ一家の一員となれたことをうれしく思います。そして最後になりましたが、このすばらしいチャンスを与えて下さった全ての方に感謝の気持ちを述べたいと思います。

大平晃子さん

サンマテオ訪問は、私にとって初めての海外旅行でした。サンフランシスコ空港に着いた時には、不安でいっぱいだったのですが、初対面のホストマザーは“I　LOVE　YOU”とリボンに書いた花束を、私に渡し、笑顔でやさしく家族の一員として迎え入れてくれました。

私が、ガービーさんのお宅にホームステイさせていただいた９日間は、貴重な体験と楽しい思い出でいっぱいです。

その中でも特に印象に残ったのは、アメリカの子供と日本の子供との違いです。ガービーさんの家には、14歳のジェニーがいて、７歳と３歳の子のベビーシッターのアルバイトをしていました。アルバイト先へ興味本意で遊びにいくと、７歳の子が家中を案内してくれました。客が来た時には、家の中を見せるのが習慣のようで、まるで自分がホストであるかのようにふるまっていました。小さい子供だから、と甘やかされずに、厳しくしつけられているのに感心しました。また、ジェニーが、子供たちの親の代わりとして責任をもって仕事をしている、その姿は、堂々としていて、とても立派だと思いました。それに比べると、日本の子供は、〝自立〟という点で、アメリカの子供に劣るように思います。過保護にされすぎなのではないでしょうか。

ところで、ガービーさんの家では、夕食時に日本のことについて尋ねられたのですが、日本人の働き過ぎや、夏休みにまで宿題のだされるつめ込み教育のことを知って、とても不思議がり、そしてひどく同情してくれました。日本と比べてアメリカでは生活にゆとりを持たせ、毎日を楽しんでいる様子がうかがえました。

短い間でしたが、私の考え方に影響を及ぼすような、新鮮で大きな刺激をたくさん受けました。このすばらしい経験をこれからの生活に生かしていけるよう、努力したいと思います。

フィッシャーマンズワーフ
（サンフランシスコで）

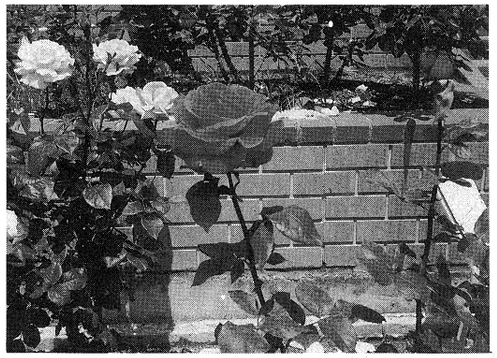
アラカルト

友好のバラ咲き誇る

二ノ切公園（東豊中町５）内にあるバラ園で、サンマテオ市から贈られたバラ６株が美しく開花し、辺りに甘い香りを漂わせています。

このバラは、フローレンス・ローズ議員が姉妹都市提携25周年の記念式典に出席のため３年前に来豊した際、二ノ切公園のバラ園を見学。その素晴らしさに感激し、プレゼントを約束、一昨年１月に贈られたものです。

６株のバラは、クリーム地にピンクの縁がある「プリスタイン」種など珍しいものばかりで、訪れた人たちの目を楽しませています。

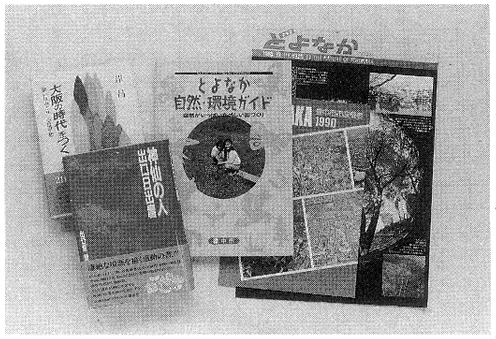


二ノ切公園内バラ園で

図書600冊を贈る

昨年、豊中商工会議所参与・神代（くましろ）宗重氏（箕面市在住）から、サンマテオ市にプレゼントしてほしいと、歴史、経済関係等の図書約300冊を寄付して頂きました。サンマテオ市立図書館に照会したところ、児童書や小説なども人気があるということ。これらの本を市立の図書館からもらい受け、あわせて豊中市政年鑑、議会史などの市関係図書なども加え、約600冊を今年３月に船便で送りました。神戸港を出て、２週間後にサンフランシスコ港に到着、税関でチェックを受けたあと、市立図書館に運び込まれました。

これまで日本語図書は、1977年と1984年の２回豊中市から送っているが、最近は「日本語図書コーナーが淋しい」との声が、図書館職員や利用者からでており、今回の寄贈は日本語を学ぶサンマテオ市民はもちろんのこと、日系２世、３世など日本語の情報に不足している人たちには大変喜ばれそうです。



サンマテオ市へ寄贈した図書

国際交流センター建設へ

豊中市は（仮称）国際交流センターを建設することになりました。今年度に設計し、1992年度（平成４年度）に工事に着手します。予定地は、府立豊中勤労青少年ホームの跡地（北桜塚３丁目。豊中市役所北500メートル。広さ約650平方メートル）です。

施設の概要は、地下１階、地上３階建てで、地区会館との複合施設。交流・情報・学習の機能を合わせ持つ施設を目指しています。完成すれば、国際交流のための講演会やシンポジウム、留学生や外国人との交流会、音楽、舞踊など、多彩な交流事業ができることになります。

移民記録「サンマテオの詩」
サンマテオ市の篠崎さんが自費出版

サンマテオ市在住の篠崎フジエさんがこのほど、篠崎さん一家の体験談をもとにしたアメリカ移民の生活記録「サンマテオの詩（うた）～アメリカ新一世の生活手記～」を自費出版しました。日本人排斥や人種差別と闘いながら、戦時下の収容所生活など、たくましく生きぬいた日本人移民の様子がドキュメンタリータッチで描かれています。

篠崎さんは、昭和11年、福岡県粕屋郡古賀町の生まれ。昭和34年に妹の綾野さんとともに渡米。38年、日系二世の男性と結婚し、夫が設立した自動車整備工場の経理を担当しましたが、54年、夫が脳いっ血で急逝。同整備工場の社長として事業を受け継ぎ、ビジネスウーマンとして活躍しています。

篠崎フジエさん（豊中市役所で）

「サンマテオの詩」は、篠崎さんの実父、故安部逓次郎さんがアメリカに密航し、波乱万丈の人生を送った足跡を記録に残そうと約８年前から執筆を始め、仕事の合間などに、こつこつと書き続け、ようやく出版にこぎつけました。

また、史実を確認するため図書館に通いつめたり、取材する人を探したり、苦心したそうです。

父親が命がけで密航する話をはじめ、他人の旅券で渡米した替え玉移民のこと、渡米のため好きな人と別れ、家政婦として働きながら成人学校で英語の勉強をしたこと、日系二世との見合い結婚、日米開戦による収容所生活、日本文化を伝えるための子供の日本留学やアメリカの教育制度など市民レベルの生活の中から観察した話がつづられています。

また、仕事を探（さが）し歩く「ブランケット担（かつ）ぎ」と呼ばれる移民のこと、東京倶楽部と呼ばれた日系の賭博場、嘘の写真を送られ、それを信じて海を渡った写真花嫁のことなど、影の部分も詳しく記述されています。

著者の篠崎さんは「国籍はアメリカ人となっているのに、未だに日本人の殻から抜け出せないまま、運命と闘いながら生きてました。図書を日本語で書いたのは、日本の人たちに読んでいただきたいからです。日系人たちへの理解、さらにはアメリカ社会、アメリカ人気質を知っていただくのに役立てば幸いです。」と話しています。

サンマテオ市少年野球チーム来訪

「さよならパーティー」も盛大に

豊島球場で

3回目の来訪
更に強い絆を!!

昨年8月、サンマテオ市からトーマス・ブラディ姉妹都市協会会長を団長に、少年野球親善チームが来訪しました。少年20人と保護者12人の計32人の一行は、1週間市内の家庭でホームスティしながら、豊中市少年野球選抜チームと親善試合を行いながら、友好を深めました。

また、帰国の前日の19日には、姉妹都市協会主催の「さよならパーティー」が、ホストファミリー、協会員をはじめ野球関係者ら約190人が参加して盛大に開かれ、日本での最後の夜を楽しみました。

両市の少年野球チームの交流は、'79年夏に豊中市から初めてサンマテオ市を訪問。その後'81年と'85年にサンマテオ市から、'83年と'87年に豊中市チームが訪米しており、相互交流は今回で6回目です。